

# 日本の屋根は“シンプル”がいい。

## 屋根材・カラーベスト発売60周年特別企画・第一弾

芦沢啓治 [芦沢啓治建築設計事務所] × グランネクスト シンプル [ケイミュー]

「石巻ホームベース」の軒先を歩く芦沢氏。「全6色のなかで、選択したのは「グラッサ・パールグレイ」<sup>※3</sup>。軒先のアクセントとして映える木材との相性を考えて、漆黒ではなく、少し明るい色をチョイスしました。「グランネクスト シンプル」はこれまでの化粧スレートとはまったく異なる外装材。日本の街並みをより美しいものに変えていく力を秘めていると思います」



「石巻ホームベース」の外観。木造切妻屋根のシンプルなフォルムを、屋根・外壁ともに、「グランネクスト シンプル」で覆い、その形状の普遍的な美しさを際立たせている。棟部・けらば・外壁出隅は建築家好みのノイズレスな納まり。雪止めも小ぶりで見立たない「スマート雪止め金具」(ケイミュー)を使用。ウッドデッキの敷設やランドスケープの構成も順次行う予定



編集制作 = 建築知識 写真 = 平林克己 デザイン = ThereThere



芦沢啓治 [あしざわ けいじ]

1973年生まれ。'96年横浜国立大学建築学科卒業。architecture WORKSHOPで建築家としてのキャリアをスタートし、super robotでの2年間にわたる家具製作を経て、2005年に芦沢啓治建築設計事務所設立。小さなプロダクトから建築プロジェクトまで業務は多岐にわたる。'11年の東日本大震災を受けて、地域社会自立支援型公共空間である石巻工房を創立。'14年石巻工房を家具ブランドとして法人化

と煙たがられている面もあるのが現実である。しかしながら、こうした固定観念は過去のものになるだろう。「グランネクスト シンプル」によって、モノとしては何の変哲もない化粧スレート。しかし、「グランネクスト シンプル」は、「LESS IS MORE」というフレーズが物語るように、無駄(装飾性)を一切排除した外装材であり、色味も控えめ<sup>※1</sup>。景観との親和性に悪影響を及ぼさない。棟やけらばなどの納まりも素材本来の美しさを引き立てるように考え抜かれている。「これまで、化粧スレートをを使用したことは一切ありませんでした。しかし、「グランネクスト シンプル」は違う。非常にミニマルなデザインで、一目ぱれしました。落ち着いた色味のよさに加え、表面の塗膜が艶感のないマットな風合いになっており、金属では表現できない質感が素晴らしい。建物に光が当たっても、光とうまく溶け合いながら、素材がもつ美点を表現できる、というのが大きな

「石巻工房」。それは2011年に建築家・芦沢啓治氏の働きかけによって、ものづくりを通じた復興と自立を目的に産声を上げた公共の工房だった。現在は家具ブランドであり、地元および海外向けのワークシヨップ・イベントなどを開催。デザインの手でDIYの可能性を広げる、ものづくりを目指している。「石巻工房」で取り扱う家具の多くは、硬くて加工しにくい広葉樹ではなく、軟らかくて加工しやすい針葉樹が用いられています。加えて、すべての商品は、「シンプルで機能的」をコンセプトに開発されたものです。形状は普遍的。装飾性には乏しいかもしれませんが、末永く愛用されるデザインを意図しており、モノ(命)を大切にすることの尊さを感じてもらえるのではないかと、思っています(芦沢氏)。

そんな「石巻工房」の哲学は日本以外にも広がりをみせる。今や、活動の場は世界各国にまで及ぶ。その魅力です<sup>※2</sup>。「石巻工房」のコンセプトにもマッチしています(芦沢氏)。「石巻工房」の新しい門出を飾る「グランネクスト シンプル」は、天然スレート(粘板岩を薄く切断して板状にしたもの)の生産地である石巻という土地にも共鳴する。東日本大震災により、天然スレート葺き建築の多くは消失してしまっただけでなく、晴れた日は乾いた表面が青味がかり、雨の日はずっとりと漆黒に濡れる。天然スレートの美しさは、地元の人々の記憶に刻まれている。「グランネクスト シンプル」は天然素材ではない。しかしながら、その飾り気のない無垢な表情は、人々を魅了することだろう。その証拠に、建築中に現場を通りかかった地元の人々が、外装材に興味を示すこともあったという。石巻の地で歩みをはじめた「グランネクスト シンプル」。今、日本の風景を変えはじめています。

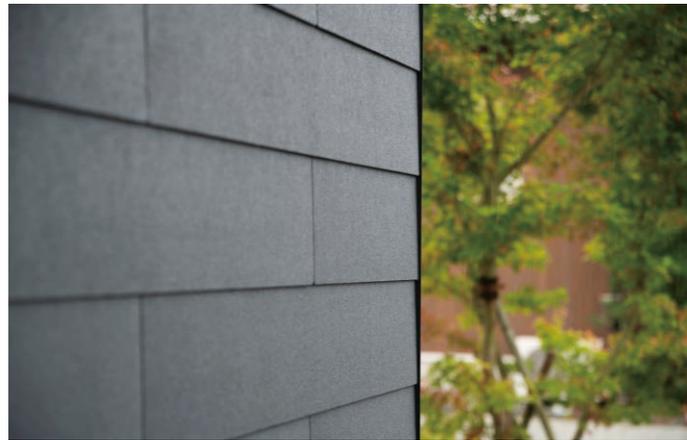
発信力をさらに高める場として、2020年夏にオープンするのが「石巻ホームベース」という新たな拠点である。「石巻工房」のシヨールーム機能に加え、クラフトビールを製造するイシノマキ・ファームのシヨップ、溶接が行えるワークスペース、さらにゲストルーム4部屋を備えた建物です。内部は大きな吹抜け空間となっており、多目的に使用できます。建物自体がアイコンとなり、「石巻工房」の活動をより多くの人に知ってもらえるでしょう(芦沢氏)。

アイコンならば、建物のファサードは非常に重要である。外装材に何を選ぶか。理想は、周囲の風景に溶け込みながらも、建物の個性を表現できるような材料だ。しかし、大手建材メーカーが販売する既製品の多くは、装飾性が強すぎたり、色味が周囲と調和しにくかったり。景観の親和性という観点からは、建築家に「日本の景観を壊し兼ねない」

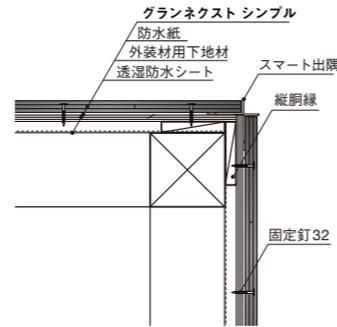
※3 グラッサとは、化粧スレートの表面を覆う無機系塗膜「グラッサコート」のこと。一般的な化粧スレートに比べて「グラッサコート」は耐候性が極めて高く、30年相当でも色の変化がほとんど目立たない。メンテナンスに手間がかからない外装材であるといえる

※1 「グラッサ・ブラック」「グラッサ・パールグレイ」「グラッサ・アーバンシルバー」「グラッサ・ココナッツブラウン」「グラッサ・アイリッシュグリーン」「グラッサ・ミッドナイトブルー」の6色をラインアップ。いずれも街並みに寄り添う低彩度の色である

※2 建物の計画地は海岸に近い敷地。金属板では塩害による腐食が懸念されるのに対し、「グランネクスト シンプル」にはその心配がない



「グランネクスト シンプル」を外壁材として使用する際に気になるのが出隅部の納まりだ。一般的なサイディング（窯業・金属）では、同質の役物を使用して納める際に、デザイン上不要な凹凸や線が入ってしまうが、ここでは「スマート出隅」と呼ばれる十字形の金属出隅部材を用いた。その出隅部材に「グランネクスト シンプル」を突き付け、ノイズレスな出隅部とした



Detail  
3

### 外壁の出隅部もシャープに見切る

## 石巻の天然スレート。その記憶をつなぐ「グランネクスト シンプル」

東京駅の駅舎にも使用されている石巻産（雄勝産）の天然スレートは、地元の街並みをもかたちづけてきた。しかし、東日本大震災の大津波により、建物の多くが消失した。しかしながら、「グランネクスト シンプル」のミニマルで普遍的な佇まいは、石巻工場の活動展開とともに、「石の家の記憶」を未来へとつなぐことだろう。

Memory



「黒い石の家の記憶」（雄勝視伝統産業会館 復旧開館記念企画）は、今泉俊郎氏が撮影した十五浜（石巻市雄勝町）の天然スレート建築、およびそれが作り出す風景をまとめた写真集。震災によって消失した数多くの建物の写真も掲載されており、「天然スレート」の記憶をたどることができる

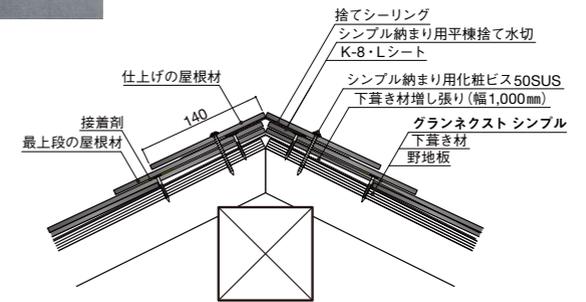
石巻工場の加工場。2011年6月設立以来、活動の幅を広げ、現在はロンドンや香港など、海外への出展や販売網を確保。同工場の標榜する「シンプルで機能的、かつ愛着のわくデザイン」が世界へと広がっている



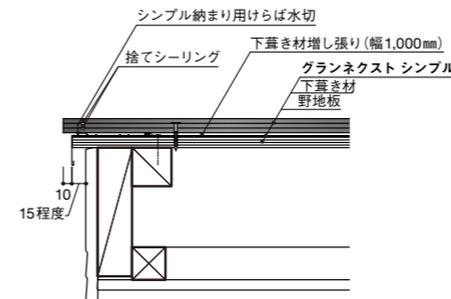
「グランネクスト シンプル」で仕上げた切妻屋根（5寸勾配）の棟部。一般的な化粧スレートの屋根では、木下地の上に、金属板で棟部を仕上げる事が多いが、「グランネクスト シンプル」では、捨て板金や捨てシーリング（標準部材）の上に、「グランネクスト シンプル」そのもので仕上げる「シンプル納まり」も用意されている。屋根面と棟部の統一感が高まるほか、棟部の凹凸を抑え、屋根のラインを一直線に見せられる

Detail  
1

### 切妻の棟部も同じ素材で仕上げる



「グランネクスト シンプル」によるけらばの納まりの例。一般的な化粧スレートでは、端部からの水の浸入を防ぐため、小口面を金属板で覆う納まりを採用するのに対し、「グランネクスト シンプル」では、水返しの付いたライン状の捨て板金を屋根の端部に取り付けることで、端部からの水の浸入を防止。その捨て板金に合わせて「グランネクスト シンプル」を重ね合わせる。屋根の端部を大胆に切り落とした納まりが、力強さを感じさせる。垂木・野地板とのコントラストも見た目に映える



Detail  
2

### けらばは“小口”をあえて見せる